

第6期第1回神戸市立図書館協議会協議内容

日 時：平成30年12月21日（金） 15時～17時

場 所：神戸市立中央図書館2号館4階 研究室(1)(2)

出席者：（委員）湯浅会長、一居副会長、河島委員、山崎委員、桜間委員、葛西委員、
安福委員、齊藤委員

（事務局）中央図書館長、総務課長、企画情報担当課長、利用サービス課長、
総務係長、地域連携推進担当係長、図書館サービス拠点整備担当係長、
市民サービス係長、学校図書館支援担当係長、調査相談係長、資料係長

傍聴者：4人

1 開会

2 報告

（1）神戸市立図書館の事業について

- ・神戸市立図書館の現状について
- ・平成30年度利用見込及び上半期実績
- ・平成30年度の図書館事業実績（上半期）
- ・北神図書館の整備について
- ・「（仮称）新三宮図書館基本計画」「（仮称）新西図書館基本計画」について

（2）その他

- ・「KOBE 電子図書館」利用状況
- ・返却ポストの再設置
- ・読書週間行事報告

3 議事

今期の図書館協議会のテーマについて

4 閉会

【会長・副会長選出】委員の互選により、会長を湯浅委員に、副会長を一居委員に決定。

【報告】報告事項「神戸市立図書館の事業について」「『KOBE 電子図書館』利用状況」「返却ポストの再設置」「読書週間行事報告」について、事務局より報告。

【報告に関する質疑応答】

- (会 長) 事務局から説明のあった報告事項について、委員の皆さんからのご質問あるいはコメントがあればお願いしたい。多岐に渡っているが、どの部分でも結構である。
- (委 員) 資料4で、政令指定都市の図書館比較があった。意外と神戸市の順位が低いというのが正直な感想であるが、事務局からの説明で、合併して政令指定都市になった所は、それまでの市町に図書館があったのでということであるが、そうすると以前はもう少し順位が良かったということか。
- (事務局) その旧の5都市の中でしのぎを削っていた。
- (委 員) やはり比較的最近に政令指定都市になった所が、確かに上位といえれば上位だが必ずしもそうでもないとも言える。
- (事務局) そのような傾向が見られるとは感じる。
- (会 長) 例えば蔵書数が増えるということや予算の面など、今後に変化があるのかどうかを聞かせていただきたい。
- (事務局) 資料費については獲得できる可能性はあるだろう。蔵書数は神戸の場合、中央図書館が100万冊、各区の図書館10館がそれぞれ約10万冊を所蔵しており、合計約200万冊を実績に報告した。中央図書館は書庫が有り、そこに将来残していきたい本を置いているが、現在書庫が満杯の状態である。明治・大正期の本も所蔵しているが、それらは入手不可能なもので廃棄できず、今後保存していく必要がある。蔵書をいくら増やしたいと思っても、収容可能容量からは逃れられない。しかし最近建て替えた館は、広い書庫も考えて設計し、そこにはそれだけの容量があるので、将来に本を残していける。
- (事務局) 資料費として年間約1億5千万円頂いており、平均単価を約1500円とすると10万冊購入できることになる。本来ならば毎年10万冊増えていくはずだが増えてないということは、逆に10万冊除籍しているということである。その主な理由は書庫に収容できないためであり、根本的に書庫や流通のロジスティックを考えなければいけない時期にはきている。今回北神分館や西図書館は蔵書を増やそうということで新しい図書館を作るが、根本的には、書庫をどうするか、流通と書庫の問題というのがこれからの問題であると考えている。
- (委 員) その問題は恐らく以前からの大都市は同じだと思われるが、その解決策について他のところでは何か先進的な取り組みはあるのか。
- (事務局) 先般見学した例えば札幌市立図書館は非常に書庫が広く、複本も多く保存されているようである。書庫のボリュームがあるところは蔵書が増えていくであろうが、他のところも今後いきなり蔵書が増えるということはないだろう。
- (事務局) 昔から、分担収集や県内で分野を分けて保存をしたらいいのではないかとすることは議論はされている。総論は皆賛成となるが、ではどこに何の分野を置く

のかという各論でつまずき、分担で保存するという話もあまり成功している事例は聞いたことがない。

(会 長) 委員の皆さんは除籍に関してはどのように思われるか。つまり 10 万冊廃棄することに関してはどういう印象を持っているか。

(委 員) ちょっともったいない気がする。以前、東灘図書館でリサイクル雑誌をもらったことがある。リサイクルということで神戸市としても動いている状況なので、そこも活用していけたらいいのではないだろうか。

(委 員) 個人への図書のリサイクルはないのか。

(事務局) 個人向けには実施していない。読書に関連する施設に対しては実施している。

(委 員) 雑誌は個人向けである。

(事務局) 雑誌は館によってはイベント形式で実施している。図書は神戸市内約 100 箇所の福祉施設や市民図書室にはリサイクルを行っている。

(会 長) もう一つの抜本的な解決方法としては、自動書庫を導入するというのがある。例えば金沢海みらい図書館は日本ファイリング社製の自動書庫である。かなり容量があるため、新潟市立ほんポート中央図書館も自動書庫で解決した。実は立命館大学も 2 年続けて大阪茨木キャンパス、衣笠キャンパスと新図書館を建設し、その際に自動書庫も導入し、書庫狭矮問題は完璧になくなった。抜本的にはそのようなことがあるだろうが、中央図書館に自動書庫を導入するというのは難しいのか。

(委 員) 自動書庫の説明をお願いしたい。

(会 長) 自動書庫というのは、ラックにコンテナ（収納ケース）を上高く積み上げており、そのコンテナがコンベアに乗って自動的に出納口まで運ばれてくる。その中から 1 冊本を取り、代わりにふだ等を入れて、もう一度戻っていく。出納まで大体 5 分。あっという間である。

(委 員) 本を取りに、人が書庫内を走っていかなくていいということか。

(会 長) その手間がない。また返却の時に同じ場所に戻すという仕組みである。

(委 員) とても費用がかかりそうである。

(事務局) 本日協議会終了後、もしご希望があれば、普段は入れない書庫をご案内したい。お時間のある方はご参加いただきたい。

(会 長) では次に議事に移る。今期の図書館協議会のテーマについて、事務局から提案があるようなので、まず説明をお願いしたい。

【議事】事務局より、今期の図書館協議会のテーマ検討についての参考資料として、別紙 1「多様な人々の円滑な図書館利用のために」、別紙 2「神戸市立図書館で行っていること、他自治体のサービス事例」を配付。

事務局より、別紙 1 に沿って、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（資料 3）と「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の関連箇所を説明。

別紙2に沿って説明、「神戸市立図書館が行っていること」は実物を提示。

また神戸市全体の動きとして、「神戸市認知症の人にやさしいまちづくり条例」の制定、神戸市公式ベトナム語 Facebook 開設等について説明。

(事務局) このテーマは内容や対象が非常に多岐に渡り、一度に全てを議論することは難しいだろう。ご興味のあるところや話し易いところから始めていただき、複数期において協議できればよいと考えている。テーマについて、協議の進め方を含めての議論をお願いしたい。

(会長) 今期の協議会のテーマを、どのような形で進めていくかを、委員の皆さんのご意見を頂戴して検討したい。リオデジャネイロのオリンピック・パラリンピックで、都市として建物などに様々な障害があったが、ボランティアが積極的にサポートするなどソフト面の対応を行ったため高い評価を受けたことは記憶に新しい。東京オリンピックに際しても、外国人に優しいとか他に災害時の外国人への対応の必要性等、世界的な動向にマッチしたテーマだと思う。特に視覚障害者は今まで点字図書館は厚生労働省管轄、一方公共図書館は文部科学省、あるいは地方自治体の管轄というイメージであったが、あらゆる国や地方公共団体の機関が合理的配慮を行わなければならないという、いわゆる福祉的・恩恵的なものから完全に障害者の人達の権利に変化しているため、やらなくてはならない基本であろう。そのような観点から、委員の方々が協議していきたい。

(委員) 私は今、北神分館をよく利用しているが、昔は芦屋市に住んでいた。芦屋の図書館が谷崎潤一郎記念館の近くにあり、子供のベビーカーを押しても行くことができた。DVD もあり、図書館の変化に驚いた。子供に DVD を見せながらゆっくりと本を探すこともでき、とても便利だった。北区に引越してすぐに阪神・淡路大震災があった。岡場駅の近くに図書館があったが小さかったため、すぐ近くにある三田市の図書館に行くと、DVD や CD も借りれることがわかったが神戸市民は借りることができなかった。母が神戸生まれで、いつも神戸のことを自慢していたので、私も神戸が大好きで憧れもあったが、住んでみると他都市との差を感じた。(北神分館は) 今は少し大きくなり、今度新しくなるということのでわくわくしている。また、三宮の図書館も新しくなるということだが、今の三宮の図書館は非常に小さい。資料 8-1 「(仮称) 新三宮図書館基本計画一概要版一」には、スウェーデンの図書館の写真が添えられており、これをイメージしているのかと思った。トイレについてだが、アメリカなどは今は男性用女性用、そして LGBT 用というのが必ずある。それが当たり前になってくる時代に、神戸が最先端で、そこは当たり前のような感じに率先していただけたらという希望がある。もっと自慢できるような図書館にしていだきたい。また外国の方がたくさんおられるのであれば、通訳はどうなるのかといったことなどが心配である。娘が韓国に留学して、韓国のほうが非常に発展しているとい

うことを知った。図書館ではないが、例えば今よく若い子が使うスマホを使った何かのサービス、また女性であればポイントを利用すればするほど何かで使えるサービスなどがあつた。よく私は母に付き添って病院に行くが、病院の中に必ずカフェがある。そのようなものもあればいいと思う。アメリカのニューヨークの図書館だったかと思うが、それがすごくいいなという印象があり、そのような図書館が日本にはあまりないというか今まで行った中にはほとんどなかったので、くつろげるということコンセプトの中に入れてもらえたらと思う。また個人的にはインターネット等で注文して図書館に行かないというより、どうしたら図書館に行きたいと思ってもらえるのか、本があまり好きでない人からも行きたいと思ってもらえるような図書館を目指していただけたらと思う。

(会 長) ご意見が多岐に渡っており、最初にベビーカーで行けるかどうかという話もされていたが、例えば事務局から問題提起があつた部分でいうとどの部分をというのはあるか。

(委 員) 芦屋市の図書館はバリアフリーで、ベビーカーを押しても楽に行けるところだった。三田市の図書館も良かった。三田市にいる友達から、CDを借りた、DVDを借りたという話を聞くと羨ましく思う。神戸は非常に遅れているように感じる。

(会 長) 事務局にはかなり耳の痛い話である。

(委 員) 申し訳ない。特に北神分館が小さかつたのでそう思った。三宮まで行くのも大変であつた。

(会 長) 図書館を利用されているの本音の部分だと思う。どこかにターゲットを絞っていきたいが、いかがか。事務局からの問題提起ということで説明のあつた、ここから始めてはどうかということがあれば、ぜひご発言をお願いしたい。

(委 員) 質問だが、ハンブルとかベトナムの方に対することをおっしゃっていたが、実際に(図書館に本を)借りに来られたりする方はたくさんいらっしゃるのか。というのは、本校にもベトナムの方がおられるが、保護者会に来られても日本語で話すことができない方もいる。NPOの団体があり、子供に対しては書籍を置いて読ませている場所があるが、大人に対する場所はない。彼らは一体どんなところで知識や情報を得ているのかが気になったので、教えていただきたい。

(事務局) 具体的に、国別の統計はとれていないのではっきりとしたことは申し上げられないが、やはり先生がおっしゃったように子供の利用は結構ある。ただ、小さい子供と親が来てくれて使ってくれたらいいなというのは当初から思っていたが、PRをしてもなかなか親は来館しないという状況がある。逆に新長田図書館の側からNPO神戸定住外国人支援センターに出向いて本の紹介をすることもあり、図書館に直に来ていただけるというのはなかなか難しい。

- (会 長) ベトナム語の書籍に関して、新長田図書館ではカード目録で管理されているが、それは多言語対応の OPAC 等そのようなことを検討されているのか。
- (事務局) ベトナム語はそうでもないが、ハングル書籍は結構多く所蔵している。その本のデータを入力する必要がある、その業務も結構大きなものである。
- (会 長) 新たに何かではなくて今ある所蔵資料で、ご質問にもあった大人の人ということになってくると、新長田図書館は基本的に世界の絵本とか子供向けのものが中心である。ベトナム語で書かれた世界情勢の話であるとか、むしろ逆に日本の経済のことであるとか、そういったものはあるのか？
- (事務局) あまりない。紙の本で収集する難しさというのもある。今後多言語の書籍の提供ということになると、電子書籍に頼らざるを得ないだろう。
- (委 員) 今の話しにあったことと少し関連あるかと思うが、事前送付で読んだ「(仮称)新三宮図書館基本計画」13 ページ(第 4 章(仮称)新三宮図書館整備検討会 2. 検討会開催記録 意見抜粋)のところの(3)「多様性とアクセシビリティについて」に、「住んでいる人たちの多言語、多文化を尊重する視点があるとそこに(多言語、多文化の)人は来る。資料は多くなくてもよい。図書館に行けば多言語・多文化との出会いがあるというのがよい。」と書いてあり、これはとてもいいことであると思った。つまり、自分達は歓迎してもらっているんだということが伝われば、本が多くあるよりはずっとそのほうが図書館に入りやすいのではないだろうか。非常に良いことが書いてある。
- (会 長) 多文化サービスといった、定住あるいは在住、在留とか色々言い方はあるが、外国人に向けたサービスについて議論を深めたいと思う。関連して他にご発言はあるか。
- (委 員) 別紙 2 で、神戸市立図書館が行っていることをたくさんご紹介いただき、あまりにも私が知らなさ過ぎたと感じたが、PR の仕方をもう少し工夫してはどうか。私は小学校の立場から言うと、例えば学校へ出向いていただき、こういったことがあるんだと子供が知ることがとても大事なことではないかと思っている。福祉教育について言えば、現在小学校では 4 年生の「総合的な学習の時間」で学習をしている。その中では、共に生きるという視点で、点字の学習や、目や耳・体の不自由な方に限らず多岐に渡って障害のある方について、また妊婦さんや高齢者についても学習を進めている。本校では先日盲学校の先生に来ていただき、子供達が盲学校はどんなところかをまず知る、ということを行った。また、難聴学級がある神戸祇園小学校では、耳が聞こえないというのはどういうことかをまず知るといようなことを出前授業いただいた。そうすると子供達が家に帰ってから、今日こんな勉強をしたと親御さんに話をすることもある。子供の時から、世の中がどうなっているかということや図書館ではこんなサービスがあるということなど、知る機会を持てたら良い。

情報は自分で取りに行くようにと言いながらも知らないこともあるので、図書館も出向いてもらえると本当にありがたい。

(会 長) まさに、そのように図書館のことについて、図書館をひとつの場にして、子供達もそこに行けば、何か様々なサービスをやっている状況が見えるということも大事かと思う。

(委 員) 夫の母から、婦人会での出前トークなどの話を聞く。学校だけではなく、婦人団体やシルバーカレッジなど、そのようなところにも同様にアウトプットいただけたらもっと広がるのではないか。

(会 長) いろんな場面があるということである。論点を分けていったほうがいいのかと思うが、図書館の対応として、こんなサービスを行っているという広報であるとか、別紙2でも行っていることがある。また行われていないことがあり、それについては特にこういう面を進めていくべきだというようなご意見はあるか。

(委 員) 先ほど言われたように、小学校に図書館の方が来て説明するというのも非常に良いが、私が偶然アメリカで見たのだが、小学校何年生かはわからないが、ツアーで図書館を見学していた。そのように見学を受け入れたり、また中学生ではトライやるウィークがあるが、直接に図書館を見てもらう、働く人を見てもらうのも良い。どこの図書館に行ってもらってもいい、近くでもいいし、遠足代わりに神戸市立図書館に行くというものでもいい。

(会 長) そのためには、図書館がそのようなサービスを行っている状態になっている必要がある。先ほど多文化サービス以外のところでご発言があるということだったがいかがか。

(委 員) サービス事例の、認知症で神戸市が条例を作ったという話である。私は実は「神戸市認知症の人にやさしいまちづくり推進委員会」のメンバーであるが、あの条例は非常に先進的な条例である。例えば認知症の人が亡くなった事故などで鉄道が遅れた場合の過大な賠償に対する解決策が非常にクローズアップされたが、あの条例自体はそれだけではなくて、日常生活の様々な場面で、認知症の人が暮らしやすい街を神戸市として創っていきましょうという話である。重点的施策ということも考えれば、認知症への取り組みを図書館でも進めていくことは外せないのではないか。個人的にもそのほうが予算も取りやすいのではと思うが、市を挙げて取り組んでいる方面については、少なくとも何らかの施策は必要なのではないか。他のことも当然大事だが、市の特徴として、そのようなところに力を入れることがあってもいいのではないだろうか。

(会 長) 了解した。認知症については、コンセンサスがあまり得られていないようなところが多いと思われる。むしろ図書館の他の利用者から迷惑な感じだと言われたりもする。従来の図書館であれば本の貸出などを中心にしているが、それだけではなく認知症あるいはそれを支える人たちにとって、図書館がひとつの場

になっていくというか、そこを追求していくということによろしいか。

(委員)

はい。

(委員)

私の祖母が昨年認知症になりかけたが、子供と接することでかなり取り戻したところがある。孫、ひ孫との同居を始めてから順調に元に戻った感じであるので、高齢者と子供が関われるような、認知症の方も同様に、そのようなイベントを図書館で実施すれば一番いいのではないだろうか。

(会長)

やはり多岐に渡ってくるとは思っているので、それぞれに対する取り組みや濃淡をつけるといふことや今期で特にこれを設けようといふことは、どこかの段階で行うとして、今日全てを決定する必要はない。今日はブレインストーミング的にこのような話をしている。いかがか。

(委員)

私の周囲にも介護している友人が大勢おり、その半数程が認知症の親を抱えている。どのように介護していくかという内容で、友人間で会話が盛り上がるが、図書館として認知症のことに取り組むということになれば、やはりどこかで本を介在にしたものにならなければ、高齢者施設や福祉団体などが行っているものとあまり違いのないものになってしまう。やはり本を絡めたところで考えていく必要があると思うがいかがか。

(会長)

それは当然であり、川崎市立宮前図書館にしても、瀬戸内市民図書館にしても、イベントをしているだけではない。そしてこの辺の事例は、また色々研究していくことは可能であろう。視覚障害にしても、最近では発達障害者を含めたつまり読字障害としても、また外国人向けのサービスにしても、それぞれ利用者ごとにテーマは違うように見えるが、例えば音声読み上げをすることにより、視覚障害の方も外国人の方も例えば漢字が読めなくても言葉で理解できるなど重なっている部分もあるため、少し整理し、このあたりから始めてみてはいかがか。時間の関係もあるため、そろそろ協議は終了し、次回にどのような形で展開していくかを決めておきたい。結構多岐に渡っているが。

(委員)

全部実施するのが一番いいが、どう考えてもヒューマンパワーは足りないし、お金が足りないのはわかっている。先ほどの話にもあったが、まずは連携を考えていく必要がある。現在の神戸市およびその周辺にどんな資源があるのかを教えていただきたい。例えば大学は今、市民に開放し始めている。これは蔵書の問題とも関わってくるが、公立図書館が何を保存するのかというのはとても大事なことで、大学も同様だが必然的に蔵書数との闘いが多くなる。不要なものを入れても仕方がないので、その機能分化というか、対象を明確にしていかなければ中途半端になりがちであろう。また、福祉系の学校や大学にはいくらかでもヒューマンパワーがあると思うので、数少ない資源を無駄に使わないように、そのリサーチを行っておいてもらえると議論しやすいのでお願いしたい。

(会長)

このテーマを協議会で考えていくのがいいというのはあるか。

- (委員) いえ、もう濃淡なく全部がよい。だから図書館の場所によっても違ってくる。そのあたりを、全てもれなくではなく、ある程度機能分化していくことも大事ではないだろうか。
- (会長) 先ほどから出ていることだが、新長田図書館のエリアに中国人、ベトナム人や韓国・朝鮮人の方もおられる。だから蔵書構成にしても、NPO と組んで行っている事業もそのようになってきている。その中で取り組んでいくことが必要になってくると思うが、これは継続的に協議することとして、いずれにしても、図書館の利用の困難な方々に対するアクセス可能な環境をつくっていくということを、協議会の今期のテーマにするということで決めておきたいがよろしいか。
- ではこれで一旦事務局のほうに進行をお返しする。
委員の皆さん、これから2年間よろしく願いしたい。
- (事務局) 議事内容は事務局でまとめ、委員の承認をいただく。次回は来年2月～3月に開催したい。具体的な日程は会長、副会長に相談の上、ご連絡する。